

VII. 資 料

厚生労働省委託事業「2010年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査（埼玉県分）」 —集計結果—

1) 基本項目について

1-1. 病床数を記入して下さい。

選択項目	件数	構成比
0	23	14%
1-19	31	19%
20-99	41	25%
100-299	43	26%
300-499	21	13%
500-	8	5%
合計	167	100%

1-2. 貴施設の種類のどれに該当しますか

選択項目	件数	構成比
大学病院	4	2.4%
大学病院の分院	2	1.2%
国立病院機構・医療センター	2	1.2%
公立・自治体病院	12	7.2%
社会保険関連病院	1	0.6%
医療法人関連病院	71	42.5%
個人病院	18	10.8%
診療所	52	31.1%
その他	5	3.0%
合計	167	100%

1-3. 過去1年間(2010.1-2010.12)で、輸血用血液製剤(全血製剤、赤血球製剤、血小板製剤、新鮮凍結血漿)を使用しましたか

選択項目	件数	構成比	病床数別					
			0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-
はい	150	89.8%	16	26	38	41	21	8
いいえ	17	10.2%	7	5	3	2	0	0
合計	167	100%						

*「はい」の施設のみ

病床数	件数	構成比
0	16	10.7%
1-19	26	17.3%
20-99	38	25.3%
100-299	41	27.3%
300-499	21	14.0%
500-	8	5.3%
合計	150	100%

1-4. 過去1年間(2010.1-2010.12)で、血漿分画製剤(アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤)を使用しましたか

選択項目	件数	構成比	病床数別					
			0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-
はい	111	66.5%	2	16	28	38	19	8
いいえ	56	33.5%	21	15	13	5	2	0
合計	167	100%						

*「はい」の施設のみ

病床数	件数	構成比
0	2	1.8%
1-19	16	14.4%
20-99	28	25.2%
100-299	38	34.2%
300-499	19	17.1%
500-	8	7.2%
合計	111	100%

2) 医療機関の管理体制について

1-5. 輸血検査を行っている部門はどこですか

選択項目	件数	構成比	病床数別				
			0-19	20-99	100-299	300-499	500-
輸血部門	11	7%	1	0	2	2	6
検査部門	100	67%	15	26	39	18	2
薬剤部門	0	0%	0	0	0	0	0
検査部門と薬剤部門	1	1%	0	0	0	1	0
その他	36	24%	26	10	0	0	0
未回答	2	1%	0	2	0	0	0
合計	150	100%					

1-6. 輸血用血液製剤を管理している部門はどこですか

選択項目	件数	構成比	病床数別				
			0-19	20-99	100-299	300-499	500-
輸血部門	12	8.0%	2	2	4	1	3
検査部門	75	50.0%	25	16	16	14	4
薬剤部門	16	10.7%	5	5	3	3	0
検査部門と薬剤部門	9	6.0%	1	3	5	0	0
その他	35	23.3%	9	10	12	3	1
未回答	3	2.0%	2	1	0	0	0
合計	150	100%					

1-7. 輸血検査と輸血用血液製剤を一元管理していますか

選択項目	件数	構成比	輸血検査を行っている部門別					未回答
			輸血部門	検査部門	薬剤部門	検査部門と薬剤部門	その他	
一元管理している	109	72.7%	10	67	0	1	30	1
一元管理できていない	33	22.0%	1	27	0	0	4	1
未回答	8	5.3%	0	6	0	0	2	0
合計	150	100%	11	100	0	1	36	2

1-8. 輸血責任医師(輸血業務担当や責任者として病院等から任命されている医師)はいますか

選択項目	件数	構成比	病床数別					
			0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-
いる(専任)	8	5.3%	0	3	1	3	0	1
いる(兼任)	70	46.7%	6	12	16	16	16	4
いない	69	46.0%	10	11	20	20	5	3
未記入	3	2.0%	0	0	1	2	0	0
合計	150	100%	16	26	38	41	21	8

1-9. 輸血責任医師(専任、兼任)の現在の所属診療科は何科ですか(複数回答可)

選択項目	件数	
輸血部(科)	4	
検査部(科)	3	
消化器内科	6	
循環器内科	8	
呼吸器内科	4	
血液内科	10	その他外科
その他内科	15	整形外科
小児科	1	泌尿器科
消化器外科	9	産婦人科
心臓血管外科	2	麻酔科・救急科・集中治療科
呼吸器外科	0	その他
		合計
		62

1-10. 輸血責任医師は、日本輸血・細胞治療学会認定医ですか

選択項目	件数	構成比
はい	3	2.0%
いいえ	73	48.7%
未回答	74	49.3%
合計	150	100%

*3病院とも500床以上

1-11. 貴施設に輸血責任医師以外に日本輸血・細胞治療学会認定医はいますか

選択項目	件数	構成比
はい	2	1.3%
いいえ	130	86.7%
未回答	18	12.0%
合計	150	100%

*2病院とも500床以上

1-12. 貴施設に臨床検査技師はいますか

選択項目	件数	構成比
はい	118	78.7%
いいえ	29	19.3%
未回答	3	2.0%
合計	150	100%

「いいえ」の病床数別内訳と検査技師のいない割合

	0	1-19	20-99	合計
病床別内訳	7	17	5	29
輸血用血液製剤を使用した施設数	16	26	38	80
検査技師のいない割合	43.8%	65.4%	13.2%	36.3%

1-13. 輸血検査業務全体を担当し責任を持つ臨床検査技師「輸血担当技師」はいますか

選択項目	件数	構成比
いる(専任)	18	12.0%
いる(兼任)	64	42.7%
いない	31	20.7%
未回答	37	24.7%
合計	150	100%

病床数別

	0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-
>>>>	0	0	0	3	8	7
>>>>	4	3	18	28	10	1

1-14. 貴施設に日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師はいますか

選択項目	件数	構成比
いる	17	11%
いない	96	64%
未回答	37	25%
合計	150	100%

病床数別

	0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-
>>>>	0	0	1	0	8	8

人数

選択項目	件数	構成比
1人	11	65%
2人	3	18%
3人	2	12%
未回答	1	6%
合計	17	100%

1-15. 日勤帯で輸血業務を行っている臨床検査技師は(複数回答可)

選択項目	件数	構成比
輸血業務専任の技師	16	
非常勤の技師	2	
輸血以外の検査業務と兼任の技師	97	
技師はいない	7	
未回答	35	
合計	157	0%

輸血業務専任の技師+輸血以外の検査業務と兼任の技師:5

非常勤の技師+輸血以外の検査業務と兼任の技師:1

輸血以外の検査業務と兼任の技師+技師はいない:1

1-16. 夜間・休日帯で輸血業務を行っている臨床検査技師は(複数回答)

選択項目	件数	構成比
輸血業務専任の技師	9	
非常勤の技師	2	
輸血以外の検査業務と兼任の技師	87	
技師はいない	27	
未回答	35	
合計	160	0%

輸血業務専任の技師+輸血以外の検査業務と兼任の技師:8
 非常勤の技師+輸血以外の検査業務と兼任の技師:1
 輸血以外の検査業務と兼任の技師+技師はいない:1

1-17. 血漿分画製剤を管理している部門はどこですか

選択項目	件数	構成比
輸血部門	1	0.9%
検査部門	6	5.4%
薬剤部門	76	68.5%
検査部門と薬剤部門	9	8.1%
その他	16	14.4%
未回答	3	2.7%
合計	111	100%

* 血漿分画製剤を使用した施設のみ

57床の施設1件のみ(誤回答の可能性あり)

1-18. 輸血関連業務(血液製剤管理、血漿分画製剤管理など)担当の薬剤師は(複数回答可)

選択項目	件数	構成比
輸血関連業務専任の薬剤師	3	
非常勤の薬剤師	1	
その他の薬剤業務と兼任の薬剤師	86	
薬剤師はいない	19	
未回答	5	
合計	114	

輸血関連業務専任の薬剤師+その他の薬剤業務と兼任の薬剤師:3

3) 輸血療法委員会について

1-19. 輸血療法委員会又は同様の機能を持つ委員会はありますか * 輸血を実施した施設のみ

選択項目	件数	構成比
はい	91	60.7%
いいえ	56	37.3%
未回答	3	2.0%
合計	150	100%

病床数別委員会の設置率

	0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-	合計
「はい」の病床別内訳	2	7	19	37	18	8	91
輸血を実施した施設数	16	26	38	41	21	8	150
委員会設置率	12.5%	26.9%	50.0%	90.2%	85.7%	100.0%	60.7%

1-20. 輸血療法委員会等の委員長は医療機関管理者または外科系医師(麻酔科を含む)ですか

選択項目	件数	構成比
はい	74	81.3%
いいえ	17	18.7%
合計	91	100%

1-21. 輸血療法委員会等の委員会に、輸血が必要な症例の多い診療科の責任者を参加させていますか

選択項目	件数	構成比
はい	77	84.6%
いいえ	14	15.4%
合計	91	100%

1-22. 輸血療法委員会の2010年(1月～12月)の年間開催回数は

選択項目	件数	構成比
0回	4	4.4%
1～5回	24	26.4%
6回	23	25.3%
7回以上	39	42.9%
未回答	1	1.1%
合計	91	100%

1-23. 委員の出席率は何%でしょうか

選択項目	件数	構成比
ほぼ100%	22	24.2%
81～99%	32	35.2%
61～80%	29	31.9%
41～60%	3	3.3%
21～40%	2	2.2%
0～20%	1	1.1%
未回答	2	2.2%
合計	91	100%

1-24. 輸血療法委員会で実施している項目は(複数回答可)

* 88/91施設が回答

選択項目	件数	構成比
血液製剤(主に、赤血球製剤、新鮮凍結血漿、アルブミン製剤、血小板製剤)の使用状況について、診療科ごとに比較検討している	56	63.6%
毎月、診療科ごとの発注量、使用量、廃棄量等を各診療科の長に配布し、診療科内に掲示している。	21	23.9%
血液製剤ごとに、月次、年次の使用量の比較・分析を行うとともに、他医療機関と比較検討及び評価している	20	22.7%
各診療科における各種指針の遵守状況について、検討するとともに、当該医療機関での解決が難しい場合、合同輸血療法委員会等に照会している	5	5.7%
輸血実施症例の検討と使用指針に基づいた評価を行っている	26	29.5%
必要に応じて、保険診療での査定状況も症例毎に検討している	12	13.6%
輸血検査(血液型、不規則抗体、交差適合試験等)の方法について、輸血の安全性を高めるために適宜見直している	47	53.4%
輸血実施の手順について、マニュアル通りに実施されているかどうかを監査している	34	38.6%
輸血療法に伴う事故・副作用について、各部署毎の状況を把握して具体的対策を講じている	41	46.6%
輸血関連情報の伝達について、ここの医療従事者へ直接伝達する方法がある	38	43.2%
自己血輸血の実施方法について、成分採血やフィブリン糊の導入を検討した事がある	4	4.5%
輸血療法委員会議事録の院内への周知について、特に医師に周知された事を確認している	28	31.8%
合計	332	

1-25. 病院会議等への報告は

選択項目	件数	構成比
している	67	73.6%
していない	18	19.8%
未回答	6	6.6%
合計	91	100%

4) 輸血管理料とDPC取得について

1-26. 貴施設はDPC取得病院ですか

選択項目	件数	構成比
はい	39	26.0%
いいえ	98	65.3%
未回答	13	8.7%
合計	150	100%

病床別DPC取得率

	0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-	合計
「はい」の病床別内訳	0	0	3	14	14	8	39
輸血を実施した施設数	16	26	38	41	21	8	108*
DPC取得率	/	/	7.9%	34.1%	66.7%	100.0%	36.1%

* 診療所を除く

1-27. 輸血管理料Ⅰ又はⅡの取得の有無について

選択項目	件数	構成比	病床数別					
			0	1-19	20-99	100-299	300-499	500-
輸血管理料Ⅰを 所得している	13	9%	0	0	2	4	3	4
輸血管理料Ⅱを 所得している	28	19%	0	0	7	18	3	0
取得していない	94	63%	14	19	25	19	13	4
未回答	15	10%	2	7	4	0	2	0
合計	150	100%						

1-28. 問1-27で「(3) 取得していない」を選択した施設にお尋ねします。取得できない理由は(複数回答可)

選択項目	件数
FFP/RBCの基準をクリアできない	32
ALB/RBCの基準をクリアできない	29
輸血療法委員会の開催回数をクリアできない	26
専任(専従)の輸血責任医師が配置されていない	62
専任(専従)の常勤臨床検査技師が配置されていない	68
輸血製剤及びアルブミン製剤の一元管理がされていない	24
指定された輸血関連検査が常時実施できる体制ではない	31
輸血前後の感染症検査ができない	9
輸血前後の検体保存が出来ない	12
副作用監視体制ができない	7
輸血療法の実施に関する指針及び血液製剤の使用指針が厳守出来ていない	9
合計	309

5) 輸血検査実施状況について

1-29. 日常勤務時間帯のABO血液型検査を主に担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	8	5.3%
検査部門の臨床検査技師	68	45.3%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	6	4.0%
院内の検査センター技師	8	5.3%
看護師	3	2.0%
担当医	4	2.7%
院外の検査機関に委託	49	32.7%
その他	0	0.0%
未回答	4	2.7%
合計	150	100%

1-30. 夜間・休日時間帯のABO血液型検査を主に担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	0	0.0%
検査部門の臨床検査技師	70	46.7%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	7	4.7%
院内の検査センター技師	5	3.3%
看護師	4	2.7%
担当医	6	4.0%
院外の検査機関に委託	41	27.3%
その他	2	1.3%
未回答	9	6.0%
9	6	4.0%
合計	150	96%

* 選択項目「9」は不明

1-31. 日常時間帯のRhD血液型検査を担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	8	5.3%
検査部門の臨床検査技師	66	44.0%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	6	4.0%
院内の検査センター技師	9	6.0%
看護師	1	0.7%
担当医	3	2.0%
院外の検査機関に委託	51	34.0%
その他	0	0.0%
未回答	6	4.0%
合計	150	100%

1-32. 夜間・休日時間帯のRhD血液型検査を主に担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	0	0.0%
検査部門の臨床検査技師	70	46.7%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	7	4.7%
院内の検査センター技師	6	4.0%
看護師	3	2.0%
担当医	5	3.3%
院外の検査機関に委託	42	28.0%
その他	4	2.7%
未回答	8	5.3%
9	5	3.3%
合計	150	97%

* 選択項目「9」の意味は不明

1-33. 血液型検査で行っている検査内容は(複数回答可)

選択項目	件数	
抗A、抗B抗血清によるABO型オモテ検査	136	オモテ+ウラ=115
A血球、B血球を用いたウラ検査	116	オモテ+ウラ+Rh=110
抗D抗血清を用いたD抗原検査	123	オモテ+Rh=13
		ウラのみ=1

1-34. 血液型検査は同一患者の異なる時点での2検体で検査を行っていますか(同一患者の二重チェック)

選択項目	件数	構成比
原則行っている	68	45.3%
行っていない	68	45.3%
未回答	14	9.3%
合計	150	100%

1-35. 血液型を確定する際に主治医による判定を採用していますか

選択項目	件数	構成比
使用している	19	12.7%
一部使用している	20	13.3%
使用していない	96	64.0%
未回答	15	10.0%
合計	150	100%

1-36. 日常勤務時間帯の不規則抗体スクリーニング検査を主に担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	10	6.7%
検査部門の臨床検査技師	36	24.0%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	4	2.7%
院内の検査センター技師	5	3.3%
看護師	1	0.7%
担当医	1	0.7%
院外の検査機関に委託	83	55.3%
その他	4	2.7%
未回答	6	4.0%
合計	150	100%

1-37. 夜間・休日時間帯の不規則抗体スクリーニング検査を主に担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	0	0.0%
検査部門の臨床検査技師	38	25.3%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	5	3.3%
院内の検査センター技師	2	1.3%
看護師	1	0.7%
担当医	1	0.7%
院外の検査機関に委託	71	47.3%
その他	11	7.3%
9	9	6.0%
未回答	12	8.0%
合計	150	100%

* 選択項目「9」の意味は不明

1-38. 不規則抗体スクリーニング検査で行っている検査内容は(複数回答可)

選択項目	件数	
生理食塩液法	62	生食法のみ:3
酵素法	89	酵素法のみ:11
間接抗グロブリン法	96	クームス法のみ:8
未回答	38	3法全て:45
		生食法+酵素法のみ:2
		酵素法+クームス法のみ:31

1-39. 日常勤務時間帯の交差適合試験を主に担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	9	6.0%
検査部門の臨床検査技師	80	53.3%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	7	4.7%
院内の検査センター技師	9	6.0%
看護師	3	2.0%
担当医	4	2.7%
院外の検査機関に委託	32	21.3%
その他	1	0.7%
未回答	5	3.3%
合計	150	100%

* 選択項目「9」の意味は不明

1-40. 夜間・休日時間帯の交差適合試験を主に担当するのは

選択項目	件数	構成比
輸血部門の臨床検査技師	0	0.0%
検査部門の臨床検査技師	79	52.7%
輸血部門と検査部門合同の臨床検査技師	9	6.0%
院内の検査センター技師	6	4.0%
看護師	4	2.7%
担当医	4	2.7%
院外の検査機関に委託	33	22.0%
その他	3	2.0%
9	6	4.0%
未回答	6	4.0%
合計	150	100%

1-41. 交差適合試験で行っている方法は(複数回答可)

選択項目	件数	
のせガラス法	10	
生理食塩液法	98	
酵素法	73	
間接抗グロブリン法	110	
カラム法	21	
未回答	14	
1法だけの施設		
のせガラス法のみ	8	
生理食塩液法のみ	6	
酵素法のみ	4	
間接抗グロブリン法のみ	7	
カラム法のみ	6	
		複数の検査法を組み合わせている施設
のせガラス法＋クームス法		1
のせガラス法＋酵素法＋クームス法		1
生食法＋酵素法＋クームス法		56
生食法＋クームス法		27
生食法＋クームス法＋カラム法		5
酵素法＋クームス法＋カラム法		3
酵素法＋クームス法		4
生食法＋酵素法＋クームス＋カラム法		3
生食法＋酵素法		1
クームス法＋カラム法		3

- 1-42. 過去1年間2010年(1月～12月)に臨床検査技師以外の職員が交差適合試験を行って、赤血球輸血を施行した症例はありますか

選択項目	件数	構成比
ある	7	4.7%
ない	135	90.0%
不明	1	0.7%
未回答	7	4.7%
合計	150	100%

「ある」: 7件は100床未満

- 1-43. 緊急輸血時にはO型RCC-LRを、交差適合試験を省略して使用していますか

選択項目	件数	構成比
使用している	9	6.0%
使用していない	100	66.7%
未だ使用していないが、 マニュアルで使用を明記	28	18.7%
未回答	13	8.7%
合計	150	100%

- 1-44. 輸血検査に自動輸血検査機器を利用していますか

選択項目	件数	構成比
使用している	17	11.3%
使用していない	115	76.7%
導入を予定している	4	2.7%
未回答	14	9.3%
合計	150	100%

- 1-45. ABO血液型、RhD血液型、不規則抗体スクリーニング検査、交差適合試験以外で血液センター、検査センター等へ依頼したことのある検査項目はありますか(複数回答可)

選択項目	件数
不規則抗体同定	78
HLA検査	22
血小板抗体	19
HLA typing	15
血液型亜型の精査	35
細菌培養	10
その他	10
未回答	47

←未回答なのか、オーダーしたことがないのかは分からない。

6) 輸血前検体の保管状況について

1-46. 輸血前検体の保存について、貴施設の実情に一番近いものは

選択項目	件数	構成比
原則的に全ての患者さんの検体を凍結保存している	68	45.3%
原則的に全ての患者さんの検体を冷蔵保存している	23	15.3%
特別な場合以外、ほとんど保存していない	15	10.0%
保存していない	38	25.3%
未回答	6	4.0%
合計	150	100%

1-47. 問1-46で(1)又は(2)の場合、検体保存期間は

選択項目	件数	構成比
1.0～5.9カ月	18	12.0%
6.0か月	4	2.7%
6.1～11.9カ月	1	0.7%
12か月	7	4.7%
12.1～23.9カ月	5	3.3%
24カ月	24	16.0%
24.1～35.9カ月	6	4.0%
36カ月	3	2.0%
36.1カ月以上(永久保存を除く)	14	9.3%
永久保存	7	4.7%
未回答	2	1.3%
1-46で保存していないか未回答	59	39.3%
合計	150	61%

2年以上は、54件36%

1-48. 問1-46で(1)又は(2)の場合、輸血前検体保存の方法について貴施設の実情に一番近いものは

選択項目	件数	構成比
血液型検査や交差適合試験の残りをそのまま保存している	63	69.2%
血液型検査や交差適合試験の残りを核酸検査に適合する試験管等に入れ保存している	17	18.7%
専用の採血管に採血し未開封のまま保存している	6	6.6%
その他	4	4.4%
未回答	1	1.1%
合計	91	100%

7) 輸血後の検体保管状況について

1-49. 輸血後検体の保存について、貴施設の実情に一番近いものは

選択項目	件数	構成比
原則的に全ての患者さんの検体を凍結保存している	12	8.0%
原則的に全ての患者さんの検体を冷蔵保存している	12	8.0%
特別な場合以外、ほとんど保存していない	41	27.3%
保存していない	79	52.7%
未回答	6	4.0%
合計	150	100%

1-50. 問1-49で(1)又は(2)の場合、検体保存期間は

選択項目	件数	構成比
1.0～5.9カ月	9	37.5%
6.0か月	1	4.2%
6.1～11.9カ月	0	0.0%
12か月	0	0.0%
12.1～23.9カ月	1	4.2%
24カ月	3	12.5%
24.1～35.9カ月	0	0.0%
36カ月	0	0.0%
36.1カ月以上(永久保存を除く)	4	16.7%
永久保存	3	12.5%
未回答	3	12.5%
合計	24	100%

1-51. 問1-49で(1)又は(2)の場合、輸血後検体保存の方法について貴施設の実情に一番近いものは

選択項目	件数	構成比
血液型検査や交差適合試験の残りをそのまま保存している	19	79.2%
血液型検査や交差適合試験の残りを核酸検査に適合する試験管等に入れ保存している	3	12.5%
専用の採血管に採血し未開封のまま保存している	0	0.0%
その他	1	4.2%
未回答	1	4.2%
合計	24	100%

8) 輸血前感染症検査の実施状況について

1-52. 輸血前に、輸血前後感染症検査等、行う事を説明し、同意を得ていますか

選択項目	件数	構成比
書面を用いて説明し、同意書を得ている	92	61.3%
書面を用いて説明し、口頭による同意を得ている	1	0.7%
口頭で説明し、同意書を得ている	8	5.3%
口頭で説明し、口頭による同意を得ている	0	0.0%
主治医に任せているので分からない	19	12.7%
説明や同意はとっていない	5	3.3%
輸血前後感染症検査等を実施していない	13	8.7%
その他	3	2.0%
未回答	9	6.0%
合計	150	100%

1-53. 輸血前に、輸血(特定生物由来製品)による感染等被害救済制度について説明していますか

選択項目	件数	構成比
書面を用いて説明している	53	35.3%
口頭で説明している	12	8.0%
主治医に任せているので分からない	45	30.0%
説明していない	27	18.0%
その他	0	0.0%
未回答	13	8.7%
合計	150	100%

1-54. 輸血前に感染症マーカーの検査(輸血前感染症検査)を行っていますか

選択項目	件数	構成比
輸血前検査として、原則として全ての症例で行っている	38	25.3%
輸血前検査として、症例によって行っている	6	4.0%
入院時検査や術前検査と合わせて行っている	78	52.0%
行っていない	22	14.7%
未回答	6	4.0%
合計	150	100%

1-55. 問1-54で「(4)行っていない」場合、理由は何ですか

選択項目	件数	構成比
輸血前検体保存を行っているため	8	36.4%
保険で査定されるため	0	0.0%
行う意味がないため	1	4.5%
その他	11	50.0%
未回答	2	9.1%
合計	22	100%

1-56. 問1-54で「(1)、(2)、(3)の行っている」場合、貴施設で輸血前に実施している感染症検査の項目は(複数回答可)

*は厚生労働省の推奨する検査項目

選択項目	件数
* HBs抗原	120
* HBs抗体	51
* HBc抗体	27
HBe抗原	2
HBe抗体	1
HBV-DNA核酸増幅検査	2
* HCV抗体	119
* HCVコア抗原	15
HCV-RNA核酸増幅検査	3
* HIV抗体	39
HIV抗原/抗体同時測定	13
未回答	0

*の項目全てを検査している施設: 12

1-57. 問1-54で「(1)、(2)、(3)の行っている」場合、輸血前感染症の保険請求について、過去1年間の実績で答えて下さい

選択項目	件数	構成比
保険請求している。今まで査定は無い	56	46%
保険請求している。査定はあったが、査定に対して再審査を請求していない	0	0%
保険請求している。査定はあったが、査定に対して再審査を請求し復活した	2	2%
保険請求している。査定はあったが、査定に対して再審査を請求したが復活していない	1	1%
保険請求していない	45	37%
その他	5	4%
未回答	13	11%
合計	122	100%

9) 輸血後感染症検査について

1-58. 輸血後に感染症マーカーの検査(輸血後感染症検査)を行っていますか

選択項目	件数	構成比
原則として全ての症例で行っている	40	26.7%
症例によって行っている	36	24.0%
行っていない	66	44.0%
未回答	8	5.3%
合計	150	100%

1-59. 貴施設で輸血後に実施している感染症検査の項目は(複数回答可)

選択項目	件数
HBs抗原	49
HBs抗体	20
HBc抗体	10
HBe抗原	6
HBe抗体	1
* HBV-DNA核酸増幅検査	24
HCV抗体	46
* HCVコア抗原	30
HCV-RNA核酸増幅検査	2
* HIV抗体	38
HIV抗原/抗体同時測定	10
未回答	2

* は厚生労働省の推奨する検査項目

HBV-NATとHCVコア抗原とHIV抗体を実施している施設:13

HBV-NATとHCVコア抗原とHIV抗原/抗体同時測定を実施している施設:6

1-60. 輸血後感染症の保険請求について、過去1年間の実績で答えて下さい

選択項目	件数	構成比
保険請求している。今まで査定は無い	46	60.5%
保険請求している。査定はあったが、査定に対して再審査を請求していない	1	1.3%
保険請求している。査定はあったが、査定に対して再審査を請求し復活した	2	2.6%
保険請求している。査定はあったが、査定に対して再審査を請求したが復活していない	0	0.0%
保険請求していない	13	17.1%
その他	7	9.2%
未回答	7	9.2%
合計	76	100%

10) 輸血の実施体制について

1-61. 輸血用血液の依頼にオーダーリングシステムを利用していますか

選択項目	件数	構成比
利用している	31	20.7%
利用していない	108	72.0%
導入を予定している	6	4.0%
未回答	5	3.3%
合計	150	100%

「利用している」の詳細

	0	0-19	20-99	100-299	300-499	500-	合計
病床数別利用施設数	1	8	4	6	6	6	31
輸血を実施した施設数	16	26	38	41	21	8	150
システム利用率	6.3%	30.8%	10.5%	14.6%	28.6%	75.0%	20.7%

1-62. 輸血検査の依頼にオーダーリングシステムを利用していますか

選択項目	件数	構成比
利用している	33	22.0%
利用していない	103	68.7%
導入を予定している	7	4.7%
未回答	7	4.7%
合計	150	100%

「利用している」の詳細

	0	0-19	20-99	100-299	300-499	500-	合計
病床数別利用施設数	1	6	3	8	7	8	33
輸血を実施した施設数	16	26	38	41	21	8	150
システム利用率	6.3%	23.1%	7.9%	19.5%	33.3%	100.0%	22.0%

1-63. 輸血用血液の入庫・出庫管理にコンピュータを利用していますか

選択項目	件数	構成比
利用している	46	31%
利用していない	97	65%
導入を予定している	3	2%
未回答	4	3%
合計	150	100%

「利用している」の詳細

	0	0-19	20-99	100-299	300-499	500-	合計
病床数別利用施設数	0	1	3	19	15	8	46
輸血を実施した施設数	16	26	38	41	21	8	150
システム利用率	0.0%	3.8%	7.9%	46.3%	71.4%	100.0%	30.7%

1-64. 輸血時、携帯端末等を用いてベッドサイドで患者と血液製剤の認証を行っていますか

選択項目	件数	構成比
利用している	16	10.7%
利用していない	124	82.7%
一部の病棟で利用している	2	1.3%
未回答	8	5.3%
合計	150	100%

11) 輸血安全対策について

1-65. 輸血療法に伴う事故の防止対策、輸血実施手順を病院内で決定し実施していますか

選択項目	件数	構成比
防止対策は輸血療法委員会等で検討しマニュアルも作成し実施している	87	58.0%
防止対策は輸血療法委員会等で決めているがマニュアルは作成していない	6	4.0%
防止対策については、院内での決定事項はなく、看護手順などにもりこみ実施している	34	22.7%
防止対策についての院内で統一した取り組みは無く、個々の医師、看護師に任されている	14	9.3%
未回答	9	6.0%
合計	150	100%

1-66. 輸血療法に関する院内マニュアルはありますか

選択項目	件数	構成比
はい	111	74.0%
いいえ	29	19.3%
未回答	10	6.7%
合計	150	100%

1-67. 輸血前感染症検査、輸血前患者検体保管、輸血後感染症検査に関するマニュアルはありますか

選択項目	件数	構成比
はい	48	32.0%
いいえ	83	55.3%
未回答	19	12.7%
合計	150	100%

12) 輸血副作用報告体制について

1-68. 輸血用血液による副作用の報告体制について

選択項目	件数	構成比
輸血部門に報告する体制	16	10.7%
薬剤部門に報告する体制	6	4.0%
検査部門に報告する体制	40	26.7%
輸血療法委員会に報告する体制	23	15.3%
リスクマネジメント委員会等に報告する体制	11	7.3%
主治医がカルテに記載するのみ	31	20.7%
副作用の報告体制がない	7	4.7%
その他	7	4.7%
未回答	9	6.0%
合計	150	100%

1-69. 輸血副作用発生症例を血液センターへ報告されていますか

選択項目	件数	構成比
報告のあった症例は原則としてすべてセンターへ報告している	27	18.0%
中等度以上の副作用症例のみ報告している	15	10.0%
主治医が必要だと判断した場合報告している	56	37.3%
通常はセンターへ報告していない	32	21.3%
未回答	20	13.3%
合計	150	100%

1-70. 血漿分画製剤による副作用の報告体制について

選択項目	件数	構成比
輸血部門に報告する体制	2	1.3%
薬剤部門に報告する体制	42	28.0%
検査部門に報告する体制	13	8.7%
輸血療法委員会に報告する体制	12	8.0%
リスクマネジメント委員会等に報告する体制	8	5.3%
主治医がカルテに記載するのみ	26	17.3%
副作用の報告体制がない	12	8.0%
その他	11	7.3%
未回答	24	16.0%
合計	150	100%

13) 輸血製剤の適正使用について

1-71. 輸血製剤の適正使用に関する、病院としての取り組みは

選択項目	件数	構成比
輸血療法委員会等で検討し、病院全体で取り組んでいる	54	36.0%
レセプト原点になるものについてののみ、指導している	4	2.7%
病院全体での取り組みは無く、個々の医師に任されている	82	54.7%
未回答	10	6.7%
合計	150	100%

1-72. 輸血製剤の適正使用を浸透させるために行った具体的な取り組みは(複数回答可)

選択項目	件数
マニュアルの配布	92
輸血前・後の評価システム導入	5
アンケート実施	2
院内使用指針の改定	40
輸血療法委員会の回数増加	13
血漿分画製剤の輸血部門への移管	1
専任の輸血責任医師の任命	4
専任の輸血担当技師の任命	3
医療保険委員会への参加	2
その他	13
未回答	33
合計	208

その他

- ・院内掲示板(イントラネット)へお知らせ 勉強会など
- ・製剤の使用日より三日間のみ保存期限とし、他の患者に使用可能とした。
保存延長する際には担当医より連絡してもらうことに。
- ・レセプト減点になるものについての指導
- ・主治医が必要と認めた時
- ・現在、特にない。
- ・薬事委員会、薬事ニュースの中で適宣実施
- ・今後の検討課題
- ・院内での投与規定を定め、規定外に投与を行う場合には、投与理由を担当医に記入してもらうようにしている。
- ・委員会で責任医師を中心に「適正使用」について協議、検討。
- ・現在話し合い中です
- ・赤十字のポスターなどを掲示した
- ・週一回の定例会での適正使用のよびかけ
- ・特にしていない。

1-73. 主治医等からの血液発注量が各種指針に準拠せず、多かった場合に「輸血責任医師」及び「輸血療法委員会等委員長」と協議し、その結果を踏まえ、「輸血責任医師」又は「輸血担当技師」が、主治医に対して使用量が多い事を指摘し、双方、十分な協議のもと理解を得たうえで改善を促す体制にありますか

選択項目	件数	構成比
はい	32	21.3%
いいえ	88	58.7%
未回答	30	20.0%
合計	150	100%

17) 血液法及び薬事法、指針改定について

- 1-111. 「薬事法」において、特定生物由来製品使用時の製剤名、製剤番号、ロット番号、患者氏名、患者住所等を記録し、20年間保管することが義務付けられていますが、その保管方法をお答えください

選択項目	件数	構成比
血液製剤の伝票をそのまま綴じている	32	21.3%
管理簿を作って記載している	64	42.7%
コンピュータで管理している	33	22.0%
その他	8	5.3%
未回答	13	8.7%
合計	150	100%

- 1-112. 「薬事法」において、特定生物由来製品による感染症などの副作用が発生し、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、医療施設は厚生労働省に報告することが求められていますが、このことに取り組んでいますか

選択項目	件数	構成比
取り組んでいる	81	54.0%
取り組んでいない	17	11.3%
現在検討中である	27	18.0%
未回答	25	16.7%
合計	150	100%

- 1-113. 「血液法」及び「薬事法」の理念並びに「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」について、院内に周知していますか

選択項目	件数	構成比
内容を含め十分周知している	49	32.7%
内容まで十分知らせていない	64	42.7%
全くしていない	10	6.7%
その他	6	4.0%
未回答	21	14.0%
合計	150	100%